



題字 福岡小6年

岡崎市特殊教育推進協議会 平成6年3月4日



伊賀の堤で

広幡小学校校長

有我亮介

私が尊敬し、親しくしていただいているYさんの長男は、障害者で、授産所で働いています。

三年前の、健康行列の日、私は、「奴」の衣装を付けて、伊賀八幡宮の近くの道端に腰を下ろして、行列の出発を待っていました。

（私の住んでいる豊田市榎塚東町は、元岡崎領で、岡崎の殿様の行列に「奴」を用していました。その二縁で、私の町は、毎年、健康行列に参加しています。）その日は、ややばだ寒い日でしたが、伊賀川堤の桜は満開で、大勢の人並みでにぎわっていました。

その時、Yさんの姿を見つけました。奥さんと長男と小学生の次男と家族四人で連れだって、人混みの中をこちらへ近づいてきます。

一瞬、Yさんに気づかかって、私は顔を隠そうと思いました。

しかし、Yさんは、笑顔で、

「今日は、家族一緒に、レストランで、食事をしようと思って。桜を見ながら歩いていくことにしたんですよ。」

と話されました。

私は、Yさん一家の後ろ姿を見送りながら、車で食事に行けば、長男を人目にさらさずにすむのに、さすがにYさんは立派だな、と感じ入っていました。

しかし、次の言葉に出合ったとき、そんなふうに考えた自分の未熟さを思い知らされました。

「障害をもっているから不幸なのでなく、障害をもつことを不幸と考える人が多いから不幸なのだ。」

市特殊学級

進路指導委員会

―事業所見学会―

発足以来五年目を迎えた進路指導委員会は、年を追うごとに充実をみえています。

進路指導委員会では、事業所見学会と講演会を行っています。この見学会は一年生・二年生の生徒とその保護者が早い時期から進路について考える機会を持ってもらおうと企画しているものです。これまでの内容を表にまとめました。

本年度は、二月八日(内)に保護者二十七名を含め総勢百三十名の参加者で実施されました。午前中はトヨトミ額田工場、川本製作所岡崎工場、マキタ岡崎工場と三つの

コースに分かれて見学を行いました。それぞれの事業所ともていねいな説明に加え、働くことへの心構えなどをお話しいただきました。生徒たちにとって自分の進路を考えるのに大いに参考になったことでしょう。

午後からは保護者と担当教師を対象に岩崎学園長、松下良紀氏より「自立に向けた親の心構え」と題した講演が行われました。将来の自立にむけて、互いに助け合えるような良い人間関係が作れる子供に育てるための心構えを語っていただきました。今後の指導の参考にしていきたいものです。

本年度の進路指導は三十三人の卒業予定者及び一年生二年生に対して、公共職業安定所など関係諸機関のご協力のもと、担当の先生方の努力によって中身の濃い適性に合った指導ができました。

事業所見学会の歩み

| 年度 | 見学先 | 講演会講師 |
|--------|---------------------------------------|---|
| 昭和63年度 | 三菱自動車岡崎工場(午前中) 一斉 マキタ電機 ヨカボキ製パン | |
| 平成元年度 | 大和化成工業 マルサンアイ 日本高分子 | 愛知師範大学職業センター 倉崎支所長 本田 健吾氏 岡崎公共職業安定所 職業相談員 三津 龍義氏 |
| 平成2年度 | 福富工業 フニ 事田工場 大竹産業 | 愛知県教育委員会 特別教育課 主任 青木 正氏 先生 |
| 平成3年度 | ユニナカ トヨトミ クワタ産業 | 愛知県教育センター 特別教育課第一研究室 顧問 伊藤 敏孝 先生 |
| 平成4年度 | マルサンアイ スタント 電気 日本高分子 | 安城養護学校 校長 五川 賢次 先生 |
| 平成5年度 | トヨトミ 川本製作所 マキタ電機 | 社会福祉法人 岩崎学園長 岩崎通雄校長 山下 良紀 氏 |

「わたしね、学校に行きたい。」とききんよ。」と驚いたり、これは、七年前、校長先生より「要するにあなたも待って、特殊学級の難しさよ、自分の無力さを思い、ためらう私心を決めさせてくれた周ちゃんのお母さんである。

周ちゃんは、知的障害を持つた男の子であった。早く母親を亡くし祖母に育てられた周ちゃんは、女の子のような優しい物言いをした。年の頃は十二才位で、小さっぱりとした緋の着物を着て、いつもハーモニカをふところにしていた。

私が小学校一年生の時、周ちゃんは、八幡様の玉垣の所で学校帰りの私達を毎日のように待っていた。そして、八幡様の鳩や鯉のことなど自分の持っている情報を私達に伝えてくれると共に、「きょう、学校で何やったんの。」と学校の様子をよかったですね。

時には、自分より下の私達に兄貴ぶって、「先生の言うこ

学校に行きたい

竜海中 小林睦子

周ちゃんは、学校に行きたくてたまらなかつたのだ。でも、当時の学校は周ちゃんのような子ども達を受け入れてはくれなかつたのである。

今日、全ての子ども達は学ぶ権利と機会が与えられ、特殊教育は整えられ、社会福祉は進んできたが、我が国の福祉行政は欧米諸国に比して遅れている。

障害者か、地域社会の中でごく自然に健常者と共に存して自立した社会生活ができる時代が早くやってくることを願い、この七年間、多くの貴重なものを与えてくれた子ども達に感謝して教師生活を終える。

学級スナップ

花いっぱいになあれ

六名小 わかば学級

わかば学級では、三年程前から自分たちで種をまいて、花を育てるようにしている。今までに、パンジー、スイトピー、ペチュニア、ゴデチャなど、いろいろな花に挑戦してきた。失敗などもあったがなんとか花をつけるまでになった。昨年からは、たくさんできた苗を、学校内の先生方にも販売するようになり、子供たちの意欲も高まってきた。

「わかばの苗で、学校を花いっぱいにするんだ。」
これがわかばの台言葉になっている。



私の教室日記

一つの目標に向かって

—ハンドベルを通して—

矢作中 植村 恵

一年目の私は特殊学級の音楽を
週三時間担当することになった。

私は、音楽というのには音を楽しむ
ものであると同時に、全員で一
つのもを完成させるものと考
えるため、毎時間いろいろと工夫を
し、生徒とのコミュニケーション
をとりながら授業を進めていった。

一学期は、前年度まで学習して
いたピアニカで今流行の曲を練習
していたが、吹ける子と吹けない
子がいるため、全員で演奏する事
は不可能であった。全員で一つの
ものを完成させ、自分たちにもで
きるんだと感じ取らせたかったの
で、一人一音を担当させ、何とか
全員で一曲を完成する事ができた。

今まで吹けなかった子は、練習す
らしなかったのに、自分の担当の
音を与えられたので、責任もって
吹く事ができ、初めて満足感、喜
びを味わう事ができたと思う。

授業をやっていく上で、どんな
新しいものを取り入れなくては
上達していかないので、二学期に

は、自分たちで音の出る楽器を考
え出し、実際に音を出してためし
てみた。しかし、思うようにでき
ず、結局はハンドベルを使っ
ることにした。ハンドベルはな
かない音も出るし、簡単な曲は
すぐに演奏できたので、目前にあ
る文化祭に挑戦しようと思った。

例年は協力学級に入って合唱コン
クールに参加していたが、もっと
のびのびと楽しみながら演奏でき
たらなあと思いつき、練習させてみる事
にした。初めは全校の前で演奏す
るということでとても嫌がって
いたが、日にちが近くなるにつれて
意欲的に練習するようになった。

緊張をする事はとてもいい事なの
で、九組の子たちにとって、すご
い良い経験だったと思う。

この先もどんどん全校の前に出
て、自分たちにもできるんだとい
う喜びと発表後の満足感を与えら
れたらなあと思っている。

* * *

話せるようになったK君 連尺小

二年生のK君は、言語発達遅滞
で発音がうまくできないために、
話せることばの少ない子でした。
でも、こちらの言うことばととも
よく分かるし、伝えたいことは身
ぶりや表現していたので、K君の
心にはたくさんのご褒美が育って
いたのです。

そんなK君が、十月の誕生日を
境に変わってきました。一学期に
は言えなかった「なまこ」が、は
きり言えるようになりました。冬
休みに北海道に行つて、「ほっか
いど、いく」と覚えしました。

三学期になつてからのことばの
獲得はめざましく、それまでのうっ
ふんを晴らすように、いろいろな
ことばを話すようになりました。
先生の話をすることをまわして練習
したり、友達の話に、「みた、み
た」「しつてる」と割り込んだり
して、大騒ぎです。「K君、しゃ
べれるんだね」と、まわりの先生
や友達を驚かせています。

成長の階段
を大きく一段
のぼった今年
のK君です。



成長の階段
を大きく一段
のぼった今年
のK君です。

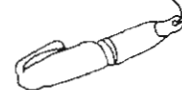
本紙「かいはつ」が、今回で
三十号目となりました。

第一号発行は、
昭和五十四年二
月です。以来、年
度毎二回ずつの発
行で十五年目を終
過することになり
ました。

初回の発行から
市の特殊教育の広
報紙として、子どもたちや教育
関係者、時には専門家の声を頂
きながら発行を重ねてまいりました。

かいはつ発行 30号

—市特殊教育の
広報紙として—



編集者の手元に保管されている
の特殊教育の歩み
がそのまま残され
ています。

最近の「かいは
つ」では、保護者
の方や通常学級の
先生の声も寄せて
頂いており、内容
の充実をめざして
発行致しております。今後とも
よろしくお願ひします。

がんばってます

岩津化成株式会社就職

村上 聡君

聡君は平成四年三月に葵中学を
卒業した生徒です。在学中は作業
学習、清掃活動で率先して働ける
生徒でした。現在、聡君が勤務し
ている岩津化成株式会社は自動車
のプラスチック部品を作る会社で

成長の階段
を大きく一段
のぼった今年
のK君です。

成長の階段
を大きく一段
のぼった今年
のK君です。



職場での村上君

ままの笑顔を見せてくれましたが、
きびきびとした動きには成長を感じ
ました。職場の方たちからも大切
にされている聡君の自慢は、まだ
一度も欠勤がないことです。

苦しみの中の楽しみ(二)

岩津中学校 渡辺 勝英

昭和五十六年から特殊教育の指導員として、各学級の授業や子どもたちの様子をつぶさに見て回る機会ができた。

この頃には、学級の施設や備品も整い、担任も集中して授業に取り組めるようになってきていた。

ところが、特殊の授業は担任まかせというところで、それぞれの勝手気ままな方法で、工夫もされずマンネリ化の一途をたどっていた。

市の特殊教育部の授業研究会の会で、各学校の担任が切磋琢磨して「よりよい授業を創ってほしい」とするムードもなく、ただ、自分の学級の実践を良しとする極めて視野の狭い閉鎖性の強いものであった。

まして、市の研究テーマを受けて授業研究を買って出て、公開するなどということはどうして望み得るすべもなかった。

こうした中で、この沈滞の気運を打破し一掃するようだが、市当局のご配慮によって実現をした。大来の福音といおうか、まったくタイムリーなもので、嬉しい

かぎりであった。

その一は、市内小中学校の特殊学級生全員による「買い物実習」の学習である。たまたま、五十六年、国際障害者チャリティーリサ

部に寄付されたことによるものであった。「子どもたちが最も喜びしかも教育的に意義のあるもの」ということで、主任者会が何度も開かれ、さまざまに協議され、決定をみたものである。その後、この実習をより効果あるものにと

「生活單元学習のあり方」が、こまごまと話し合われ、構想の検討は、時に深夜に及ぶこともあった。

度重なる会合に人間関係も和やかになり、若い人の中から案に基づいての授業公開を申し出るほどの盛りあがりを見るにいたった。

かくて、各校各学級でいろいろ面白い物学習がくり広げられた。近くの店屋へおやつや好きな物を買に行く。誕生会・クリスマス

会の買い物をする。交通機関を利用しての商店街での買い物と。い

ずれも「お金の学習」を実生活に結びつけたもので、「教室へ生活を、また、街中に教室を」。いわゆる「なすこと」によって学ぶという、特殊教育での極めて大切な学習が展開され、創造的授業への画期的な転換の契機となった。

その二は、五十八年に始まった「子どもと親の集い運動会」である。特殊学級の子どもたちと保護者

と先生とのふれ合い、語り合いの場として企画されたものである。友だちの応援、親の声援、先生の励ましに、一人一人は演技に熱

中、ふだんの学校生活では見られない生き生きとした目の輝きと動きとを見せてくれた。どの種目も、子どもと親と先生とが一体となっ

て、心を開き、手を結んで協力し合い、ひたすら自分たちの運動会をつくりあげていった。笑いもあり涙もあり、実に、楽しいすばらしい大会の進行であった。その中に、いつの間にか「この子らの明日の幸せを願って、慈しみ育んでいこう」という、固い固い連帯の輪の広がりをみた。

特殊教育では、教室という枠にとられないで、できるだけ外へ外へと開かれた指導の場を考えていくのが極めて望ましいことだ。

中学校へ行ったら

井田小 水谷方彦

ぼくが、小学校で楽しかったことは、修学旅行です。しかがいてちよつとこわかたけれども楽しかったです。ぼくは、中学校に行ったら、たくさん勉強して、パソコンをおぼえたいです。運動もやりたいです。英語もおぼえたいです。小学生の時は、よく泣いたけれども中学生になったら泣かずにがんばってやろうと思います。

わが子と一緒に

井田小 水谷きく枝

ハラハラ、ドキドキ、時には、涙ぐんだりしながらの六年間で、それでも精一杯頑張る方彦を見てみると、私の方が勇気づけられる事が多くありました。これから先、苦しい時もあるでしょうが、うれしい事、楽しく笑える事がたくさんあるように、家族で応援して行きたいと思います。

卒業おめでとう

もうすぐ卒業

城北中 中村和将

一年生のとき、高崎先生と三年生のふじしたくんとぼくと三上くん、よくおかききこともびじゅつかんにいききました。くるまの指でたのしかったです。高崎先生とおんじつのそうじをしたり、と

うゆをいれたりしました。高崎先生とちすのペンきょうもしました。そつぎょうしたら、ふぞくようこ

におしえてあげたいです。

自分の力を信じて

中村元子

短かかった中学校生活を振り返って、クラスの皆で力を合わせての行事体験、先生方の細かい指導で伸びた学習面等、いろんな場面を通して、子供なりの心身の成長を見ておきますと、これまでに導いて下さったのも先生方のご

努力の賜物と感謝致しております。これからの生活でも、今までに培ってきた力を発揮して目標に向かって歩んで下さい。